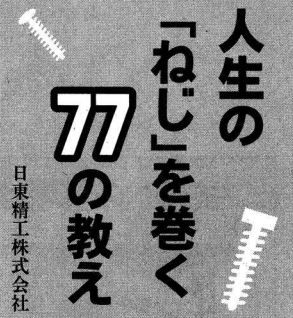


2020年11月11日  
北近畿経済新聞(5面)に掲載されました



29

捨てなければ  
得られないものがある  
剪定のすすめ

物事には、何かを捨てなければ得られない「モノ」、あるいは得られない「とき」があるものです。

たとえば、私たちは植物の形を整えたり成長を促すために、一部の芽や枝を残し、いらないものを取り除く「剪定」を行います。すべての芽を野放しにしておくと形の整わない雑木になってしまいますし、大輪の花を咲かせることもできません。里山も間伐をすることで、田畑の耕作物だけでなく、そこにつながる小さな生物にいたるまで命の循環が生まれるわけです。

これは、ビジネスの世界でもいえることです。

製品の種類や幅を広げすぎると在庫管理が大変です。そのうえ時間がたつにつれ時流にそぐわないものも出てきてしまい、コストアップを誘発します。市場に出したときには人気商品、しかもそれがロングセラーであれば愛着も湧きますが、今は状況が違って廃番にすべきという製品もあるかもしれません。

新しい商品開発や新販売戦略を立てるときなども、これまでのやり方にとらわれず、固い切っけがらみや既成概念を捨てる必要があるでしょう。

「捨てる」という決断は、時間の使い方においても同様です。業務において自己啓発に取り組むのであれば、遊びの時間をいくらか捨てることも覚悟しなければなりません。

それは、ときに苦痛がともなうこともあるでしょうが、何かをやり遂げるためには、こうした現状打破を進めることで、新しい世界が開けるのだと考えてみてはいかがでしょうか。

※「人生の「ねじ」を巻く77の教え」より転載



人生の「ねじ」を巻く77の教え

著者 日東精工株式会社 企画室  
発行所 株式会社ポプラ社

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1